

平成31年度

授業改善推進プラン



立川市立若葉台小学校

令和元年10月

平成31年度 立川市立若葉台小学校 授業改善推進プラン

令和元年10月
立川市立若葉台小学校
学校長 井土 満

「全国学力調査（6年）」、都「児童・生徒の学力向上を図るための調査（5年）」の結果が出ました。調査の結果と1学期の授業を基に、以下のような内容で、授業改善推進プランを見直しました。

- I はじめに ～（1）本校の目指す学力（2）全体計画
- II 児童の実態 ～（1）意識調査結果（2）学力調査結果
- III 授業改善の視点 ～（1）各教科に共通する授業改善のポイント
「若葉台スタンダード」
（2）各教科ごとの授業改善プラン
- IV 学力向上に向けて～ご家庭で取り組んでいただきたいこと～

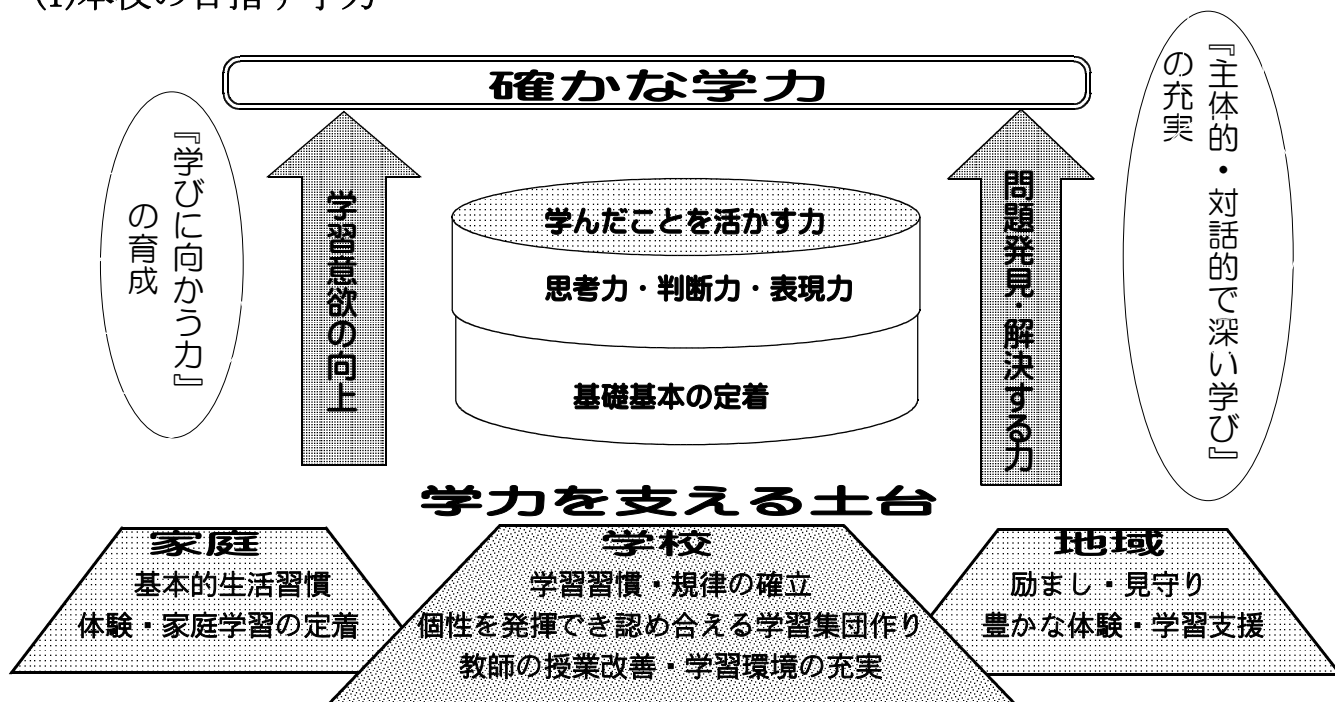
I はじめに

新学習指導要領では、知・徳・体にわたる「生きる力」を子供たちに育むため、『何のために学ぶのか』という学習の意義を共有しながら、すべての教科を『知識及び技能』『思考力、判断力、表現力等』『学びに向かう力、人間性等』という三つの柱で整理し、授業改善の活性化が求められています。

本校は、平成30年度に若葉町の二つの小学校が統合し、立川市の中で一番子どもの多い学校としてスタートしました。立川九中校区は、一小学校一中学校の地区となり、小・中連携のしやすい環境にあります。今後、多くの領域で小・中の共通理解を図り教育活動を行い、実践を積み重ねていきます。

まず、学力を向上させていくために、目指す学力を下記のように構造化して考え、日々の授業改善に取り組みます。学力向上に向けた授業改善の視点については、III 授業改善の視点 をご参照ください。

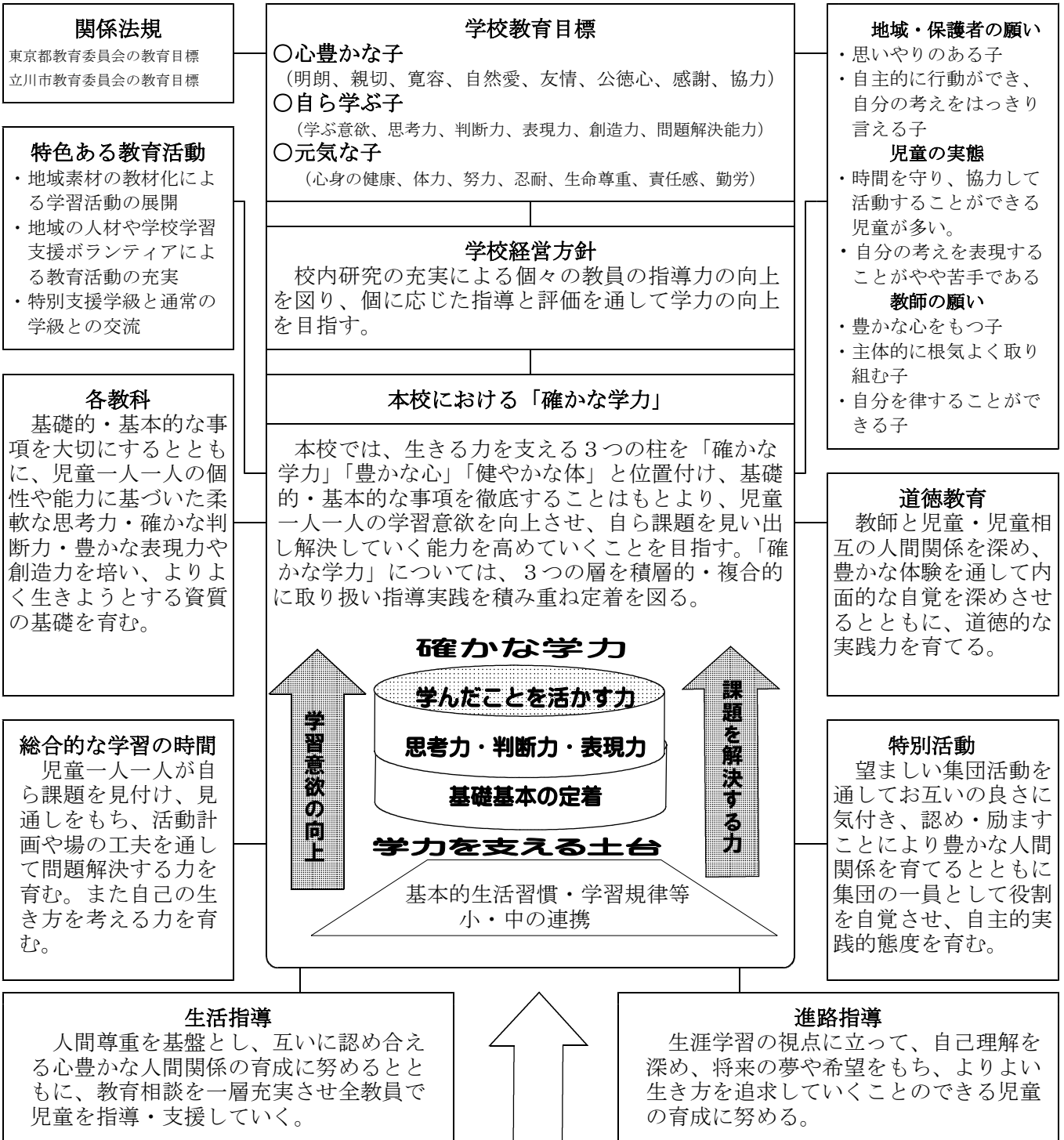
(1)本校の目指す学力



問題解決型の学習は、児童の学習意欲を高め、思考力・判断力・表現力等の力が伸びていきます。そうした学習を可能にするには、一人一人の確かな基礎基本の定着と、友達と考えを伝え合い深めていける人間関係という土台が必要です。授業改善推進プランを基に、日々の授業を工夫し、児童の基礎基本の定着を図り、協働的な学習活動を通して人間関係を育て、確かな学力を付けていくことを目指していきたいと考えます。

また、学力を支える土台作りとして、ご家庭や地域の力が大切です。『IV 学力向上に向けて～ご家庭で取り組んでいただきたいこと～』を参考にいただき、ご協力をよろしくお願いいたします。

I (2) 授業改善推進プランの全体計画

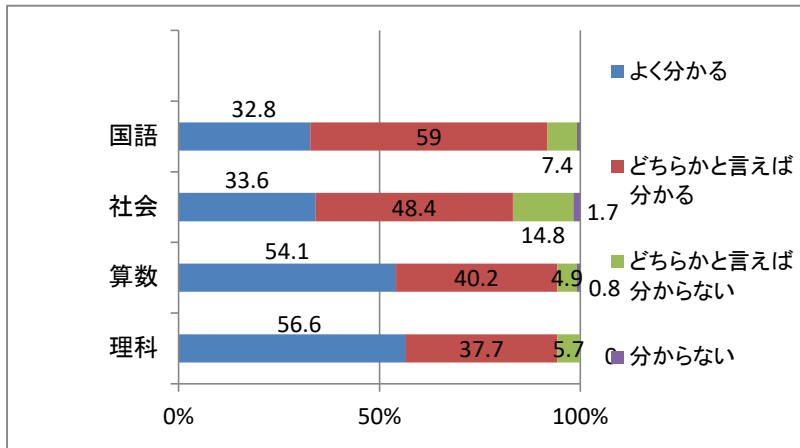


本校の授業改善に向けた視点				
指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域との連携
<ul style="list-style-type: none"> 個に応じた指導と評価を通して、学ぶ楽しさや喜びを味わえる授業を実践する。 課題提示や発表等に加え、考えを共有し深め合う活動においても、ICTを効果的に活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝学習を設定し、ベーシックドリル活用の時間を確保し、基礎学力の向上を図る。 習熟度別少人数指導を通し、個に応じた指導をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 目標と評価規準を明確にした授業を実践する。 外国語活動の研究を通して、コミュニケーション能力の向上を図り、自ら課題を見出し解決する土台を築く。 	<ul style="list-style-type: none"> 指導と評価の一体化を図る。評価を次の指導に生かす。 基礎的・基本的な事項の定着を図る。ベーシックドリル診断テストの結果を、指導に生かす。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習の重要性や取り組み方を伝え、家庭との連携を図る。 保護者による学習ボランティアや地域人材の積極的活用し、連携して指導する。

II 児童の実態

(1) 学習に関わる意識や生活状況等の調査結果 ～平成31年度都学力調査（5年）～

(1) 授業の内容は、どれくらい分かるか



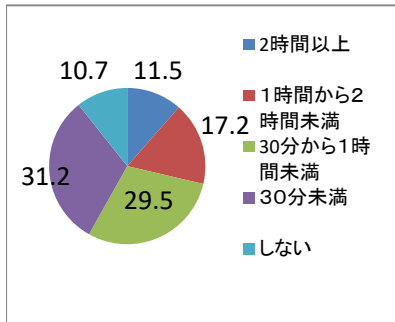
約9割が、社会を除き、授業の内容が「分かる」と答えている。分かる理由で多かったのは、「宿題をきちんとやっているから」で、宿題の大切さを理解していると言える。

国語では、「お互いに意見を出し合ったり学び合ったりする授業が多いから」、算数では、「いろいろな解き方があるから」、理科では、「観察や実験が多いから」「自分で予想し確かめる授業が多いから」といった回答が多かった。

友達と意見を出し合ったり、観察や実験など活動をしたり、自分の考えを基に授業を進めていったり、といった主体的な学習が、「分かる」ことに繋がっていると考えられる。

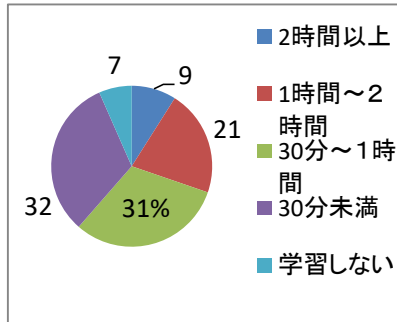
(2) 生活習慣や意識、行動について

読書を毎日どれくらいしますか



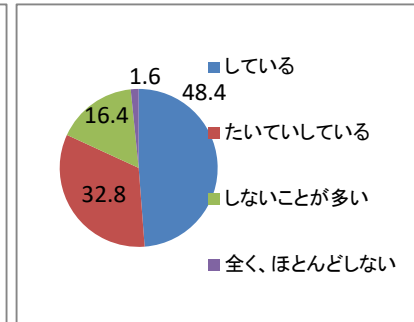
約6割の児童が30分以上読書をしている。読書量が多い児童は、特に算数や理科でも正答率も高い。今後も「読むこと」の日常化を図っていく必要がある。また、SNSの普及との関連も考慮し、家庭での過ごし方も調べていく必要がある。

学校以外で、毎日どのくらい学習しますか



30分以上毎日学習している児童の割合が7割を下回っている状況は、改善していく必要がある。宿題だけでなく、自主的な学習を促し1時間以上学習に取り組む児童の割合を増やしたい。また30分未満の児童への働きかけを家庭と連携して行い、学習習慣の定着を図っていききたい。

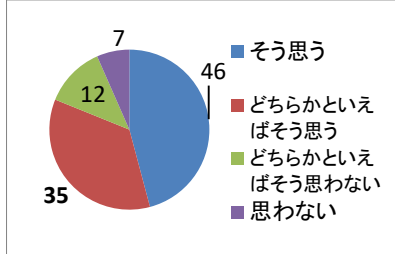
家の人と、学校や社会の話をするか



約8割が家庭で話ができている。「している」という児童は、国語や社会で特に正答率との関連も高い。

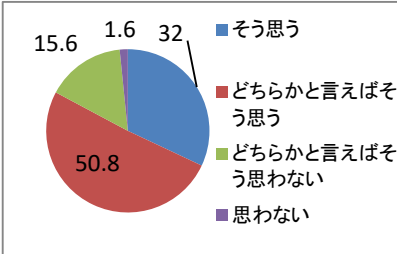
学習への意欲の要因として、様々な話を聞いて受け止めてくれる安心できる家庭の存在が大きいことが考えられ、また、社会事象の話をする事で、社会に関心をもてるようになるので、家庭へも呼びかけていきたい。

将来人の役に立つ仕事がしたいですか



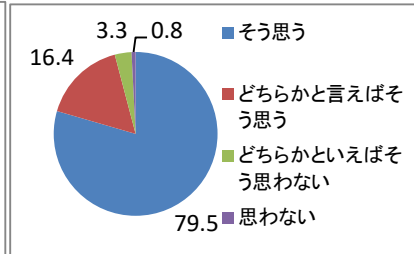
「そう思う」と答えた児童と、「そう思わない」と答えた児童とで、正答率にかなりの差があった。人の役に立つ有用感をもつことが、学習への意欲に繋がっていると言える。児童への「ありがとう」の声かけを大切にしたい。

授業の最後に振り返る活動をしているか



約8割の児童が、授業での振り返りを行っている。特に算数で、振り返りを行っている児童ほど、正答率が高い結果が出ていた。授業の中では、「考えの発表」「話し合い」と「振り返り」が正答率と深く関係しており、学力の向上に欠かせないことが分かる。

学校のきまりを守ることは大切だと考えるか



約9割以上の児童が、学校のきまりを守ることは大切だと考え、学校のきまりを守って生活している。きまりを守って生活している児童の正答率が高い結果が顕著に表れていた。こうした姿勢が、学習習慣の確立につながり、集団での学習をより深め合い高め合うものになっているといえる。

(2) 学力に関する調査結果の分析

①調査結果

5年 都学力調査の平均正答率 (%)

		平成31年度 (現5年)		
		本校	都	都平均との差
5年	国語	61.6	67.6	▼6.0
	社会	65.8	66.7	▽0.9
	算数	56.4	60.1	▼3.7
	理科	53.6	56.8	▼3.2

特に、国語で
都平均との差が
大きい。

		平成30年度 (現6年)		
		本校	都	都平均との差
	国語	63.5	65.5	▼2.0
	社会	67.7	69.3	▽1.6
	算数	49.0	52.4	▼3.4
	理科	68.0	69.6	▽1.6

6年 全国学力調査の平均正答率 (%)

6年		本校	都	国	都平均との差
	国語		61	65	63.8
算数		69	70	66.6	▽1.0

※5年の時の調査結果と比較すると、都平均との差が、国語では広がっているが、算数は改善が見られ集団の中央値は都を1P上回った。

②各教科の傾向分析と対策

【国語】 ◎ほぼできている ▼課題が見られる (50%未満)

言語についての知識理解技能

5年・・・◎漢字の書き取り ▼主語述語 ▼被修飾語

6年・・・▼漢字の書き取り ▼ことわざの意味・使い方 ▼接続語を用いて二文に分けて書く

話す・聞く能力

6年・・・◎インタビューでの質問内容と工夫

書く能力

5年・・・▼お礼の手紙の後付け

読む能力

▼目的に応じて、内容を的確に掴んだり、文章全体を概観して効果的に読み取る力

言語や文法の学習に繰り返し取り組み、定着を図っていく。また、「文章を書く」学習では、目的や意図に応じて適切に書くことや、接続語を使い効果的に分かりやすく書く学習にも取り込む。また、文章を読み取る際にも目的に応じて内容を読み取ったり、概観しておおよその内容をつかみまとめて書く学習にも力を入れたい。

【算数】

▼図形の性質や面積、角度、単位量あたりの何倍かを求める問題、グラフや二次元表の活用問題、身の回りの生活場面での算数の活用問題になると、既習事項を活かせない状況が見られた。

用語や公式、図形の基本的な性質といった知識理解の定着を図るために、既習事項を繰り返し明示し立ち戻らせ、その活用を図っていく学習スタイルを構築する。また、発展的な課題に取り組み、考えを話し合わせたり、日常生活の場面での学習内容の活用を常に図ったりしていく。

【理科】

▼温度計や火を使う実験の注意点 ▼グラフを正確に読み取り、その結果から次を類推すること

▼目的に応じた実験の条件・内容を考える問題

実験や観察の際、なぜそうするのか。操作の意味を理解させる必要がある。また、実験の目的を明確にもち、何を明らかにするための実験なのかを考えさせた上で、実験を行うこと、そして結果を比較したり関連付けたりして分析を行い、文章で表現するまとめを確実にやる。

【社会】

▼市や都道府県の位置 ▼資料から結論付けること、判断や活用問題

▼さまざまな資料の読み取りの技能 (地図・土地利用・グラフ・関係図・文章資料)

市や都、都道府県の位置や資料を読み取る技能は、基本的に確実に身に付けさせたい。さらに複数の資料から目的に合った情報を取り出し、検討し話し合う問題解決型の授業を取り入れる。その際 解決すべき課題を明確にし、その目的に合う情報を選び出し、比較する発問や原因と結果を関係付ける発問をする。さらに推論を立てて次の学習に繋げる学習展開を取り入れていく。

Ⅲ 授業改善の視点

(1) 各教科に共通する授業改善のポイント

改善の視点		
<p>① 学習を支える基盤づくり (意識調査結果分析より)</p> <p style="text-align: center;">〈課題〉</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>△知的好奇心・意欲を高める。</p> <p>△家庭学習 30分未満の層の割合を減らす。</p> <p>△基礎的な学力の定着</p> <p>△友達と考えを伝え合い、協働して取り組もうとする態度を育む。</p> </div>	<p style="text-align: center;">〈学校の取り組み〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ★学習に関連した掲示物 ★スピーチ活動 ★家庭との連携 何が宿題か分かりやすい指示。家庭学習の仕方の周知 ★全体への基礎力アップ ～ベーシック・ドリルを活用した朝学習～ ★基礎学力が身に付いていない児童への補充学習 ★日々の授業や学級活動、行事への取組の中で、よい点やよい態度を認め励ます教師の姿勢 ★「聞く力」や「聞く態度」に重点を置いた指導の工夫 	
<p>② 授業力を高めるために</p>		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>校内研究の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ○研究授業の視点 ・めあての吟味 ・常にWHY?を意識 ・ゴール(目標)に向かう展開の工夫 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>OJTの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教師集団の学び合い 先輩教員から若手教員へ指導する機会を月1回設け、指導技術の向上を図る。 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>『立川スタンダード』を生かした授業展開の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ○年3回の授業観察を踏まえた校長、副校長との面接や自己評価・分析により課題を明確にし授業に生かす。 </div>
<p>③ 日々の授業改善</p> <p>言語活動の充実を図り、授業展開で次の3ステップを意識し、改善を図ります。</p>		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>自己の思考</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学んだ知識を生かして、考える。 ○体験や経験から考える。 ○文章やグラフなどの資料から必要な情報を正確に読み取らせる。 ◎教科横断的な課題の提示をし、考えを広げたり関連付けさせたりする。 </div>	<p style="text-align: center;">■■■基礎基本の力を生かす 改善の手だて・ポイント</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ★ねらい～児童が主体的に取り組み、自分の考えを対話的に深め合うことのできるねらいとなるように設定する。 ★めあて～学習課題～を明確に提示する。 ICTの活用で分かりやすく ★解決のための既習事項を思い出させ、解決の見通しをもたせる。 ★考えを書かせる 言葉・図や絵・式等 </div>	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>伝え合い深め合い</p> <ul style="list-style-type: none"> ○基本的な『聞く・話す』態度の育成。 ○多様な見方・考え方を交流させる。 ○分かりやすい説明をする力・表現力。 ○比較・関連付けて考えさせる。 ○意図・理由や根拠を明確にして考えを述べさせる。 ○語彙を表現に生かし、相互評価させる。 ○図や式や言葉の式に表して説明させる。 </div>	<p style="text-align: center;">■■■言葉で伝え合い、学び合い解決する</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ★場の設定の工夫 対話・グループ・全体・相手交換 ★話し合いの焦点化・工夫 話し合いの視点・話し合いボード ICTの活用で考えの可視化・共有化 ★体験活動の充実 体験を通じた実感を伴う気付き・考察 </div>	
<p style="text-align: center;">思考のまとめ ■■■何ができるようになったのか？何がわかったのか？ 振り返って確かめ、深め広げよう。 次の「学びに向かう力」へつなげる。</p>		
<p>★まとめの時間の確保</p> <p>その時間のねらいに沿って、振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○基礎：その時間で身に付けたい知識・スキルの整理 ○発展：深めた考えを、自分の言葉でまとめ発信する根拠を基に、次の展開を予想、推論し意欲をもたせる。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">個のまとめ ⇨全体へ</p> <ul style="list-style-type: none"> ★協働的な学習により、それぞれのよさを認め合う集団の確立 ★自己の振り返り </div>	

Ⅲ（２）各教科ごとの授業改善推進プラン

1 国語

～各学年共通の取組～

領域	育てたい力	授業改善の取組
話すこと 聞くこと	・相手の話の目的や意図を考えながら聞く力	・説明やスピーチ等の発表を聞く際は、聞く側に聞く視点を明確にもたせて聞かせ、質問や感想などの交流活動を取り入れる。
書くこと	・調べて分かった事実や事象に対する自分の考えを、理由や根拠を明確にして書く力	・主語と呼応した文末表現を意識して書かせる。 ・文章の記述や資料の事実を基に自分の考えを書かせる。 ・目的や意図に応じて、適切に効果的に書いているか、推敲する機会を取り入れる。
読むこと	・目的に応じて、必要となる情報を取り出し、それらを関連付けて読む力	・必要な情報を取り出すために、指示語・接続語・キーワードに着目させ要点をつかませながら読み取らせる。 ・根拠となる部分にサイドライン等を引く。 ・複数の考えについて、相違点や共通点は何かを考えさせながら比較関連付けを図る。
言語事項	・文字を丁寧に正確に書く力 ・豊かな語彙力や言語感覚 ・文章を正確に理解するための文法の理解	・細部まで確認したり、間違いやすい部分に着目させたりして正確に表記できるようにする。また、習った漢字を使う習慣付けを図る。 ・考えや気持ちを表すために豊かで適切な言葉を使うようにするため、読書活動の推進と、辞書の活用を図る。 ※読書週間 ・主語述語／修飾語・被修飾語の関係等、文法を読解や作文と結び付けて指導し身に付けさせる。

～より具体的な取組・実態に合わせた取組～

	育てたい力	授業改善の取組	日常活動・補充活動
1年	・日本語を正しく書く力	・正しく読んだり書いたりする活動をくり返し行うことで、音声と文字を結び付けさせる。 ・話型や文型を使って、音声や文字で表現させる体験を繰り返し積みさせる。	・言葉遊びやゲームを取り入れ、豊かな言語感覚を養い言語に慣れ親しむ。
2年		・主述の照応した文を書けるようにする。 ・順序を表す言葉を活用し、簡単な構成で文章で書けるようにさせる。	・書き方の例示を参考にさせる。
3年 4年	・自分が言いたいことを分かりやすく書いて伝える力	・書きたいことの内容を明確にし、段落に気を付けたり、接続語を適切に用いたりして書かせる機会を多く取り入れる。 ・習った漢字を使って書かせる。	・各教科で学習の振り返りを書く等、日頃から書く活動を取り入れる。 ・「日記指導」で習慣付けを図る。
5年 6年		・文章中の要旨につながるキーワードや人物の気持ちを表す言葉など、言葉に着目させる。類義語や言い換え等を試みる。 ・文章の要旨を捉え、要約したり、自分の考えを入れてまとめたりさせる。 ・いろいろなテーマや文種に応じた作文のスキルを指導し、自分の伝えたいことを必ず入れて書かせる。	・「日直のスピーチ」で、言いたいことの内容をはっきりさせて、話せるようにする。 ・辞書をいつも手元に置き、すすんで調べ、活用できるようにする。

2 社会

～各学年共通の取組～

観点	育てたい力	授業改善の取組
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な知識の定着 資料を正確に読み取る力 ～地図の読み取り方、地名、位置、基礎的な事象、特色～ 	<ul style="list-style-type: none"> 映像資料や具体物などで視覚化を図る。 宿題やベーシックドリル等を活用し復習させる。 グラフや統計資料、写真等の資料の読み取り方の基本を指導し、何が読み取れるか、全体で確認する。
思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> 複数の資料を比較関連付けて結論をまとめていく力 社会的事象の意味や目的を考える力 	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に考え、友達と考えを伝え合いながら解決していけるような課題設定を工夫する。 資料から読み取った社会的事実や事象を、比較したり関連付けたりしながら、その意味や目的を考え、単元のねらいに結び付くような結論をまとめていく。
学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> 実生活と結び付けて考えようとする力 	<ul style="list-style-type: none"> 世の中の出来事と学習している内容を結び付けながら考えさせ、意欲や関心をもたせる。

～より具体的な取組・実態に合わせた取組～

	育てたい力	授業改善の取組	日常活動・補充活動
3年	<ul style="list-style-type: none"> 資料を読み取る力 	<ul style="list-style-type: none"> 調べようとする意欲がもてるような資料や課題を提示する。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料にふれる機会を多く設定する。
4年	<ul style="list-style-type: none"> 全体の流れをつかむ力（ゴミ処理や水道水が届くまで等） 	<ul style="list-style-type: none"> 絵や図に表し、それぞれの意味や目的を確認しながら、全体の流れや因果関係をまとめ理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体をまとめた図の掲示 教科書や地図帳等の資料を活用し、資料を読み取る力を身に付けさせる。
5年	<ul style="list-style-type: none"> 国土の様子や特色を具体的につかむ力 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な既習内容と比較したり、映像資料や具体物を提示したりして理解させる。 	
6年	<ul style="list-style-type: none"> 調べて分かったことを自分なりにまとめる力 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の最後に、その時間学習したことを、単元のねらいに照らし合わせながら自分なりの言葉でまとめる時間を確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> 興味ある人物や事柄について、さらに詳しく発展的に調べさせる。

3 算数

～各学年共通の取組～

領域	育てたい力	授業改善の取組
A 数と計算	<ul style="list-style-type: none"> ・確実に四則計算をする力 ・数の豊かな感覚 ・計算のきまりを活用する力 	<ul style="list-style-type: none"> ・筆算を見直す際の視点を示し、自分の計算を振り返ることで、計算ミスが減らしていくようにする。 ・1つの数量を複数の方法で表す機会を取り入れる。 ($100=99+1$, $10\times 10, 1$が100こ, $105-5$など) ・具体的な場面と関連付けて、目的に応じて計算のきまりを活用できるようにさせていく。
B 図形	<ul style="list-style-type: none"> ・角度や面積・体積など、身の回りの事象と結びつけて考える力 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人に具体物を用いての操作活動を多く取り入れその結果、分かったことや気付いたことをまとめていくようにする。
C 測定 1～3年	<ul style="list-style-type: none"> ・量の単位を的確に捉え、大きさの感覚を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実生活で使う道具や場面と関連付けて、量の感覚を身に付けさせるとともに、必要に応じて複数の単位を使って表すなど、単位の換算ができるようにする。
C 変化と関係 4～6年	<ul style="list-style-type: none"> ・伴って変わる2数の関係から、きまりや特徴を見つけ出す力 	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りにある事象と関連づけて、2つの数が増えるきまりを見つけさせるとともに、式、表やグラフ等に表現できるようにする。
D データの活用	<ul style="list-style-type: none"> ・目的に応じて必要なデータを集め、表やグラフなどに表す力 	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回り事象から目的に応じたデータを収集し、多面的にとらえて分析できるようにする。
学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ・算数で学んだことを生活や学習に活用しようとする態度を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・算数で学習したことを振り返り、身近な生活で活用できる場面を見付けさせ、数学的な処理や表現の便利さを体験させる。

～より具体的な取組・実態に合わせた取組～

	育てたい力	授業改善の取組	日常活動・補充活動
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・問題の意味を正しくとらえ立式する力 ・正確に計算する技能 	<ul style="list-style-type: none"> ・大切なキーワード線を引いたり、数字に○を付けたりして、問題を丁寧に読ませる。 ・半具体物で繰り上がりや繰り下がりの意味を理解させ、そのやり方を身に付けさせる。 ・式から問題文を作る活動を多く取り入れる。 	<p>数学的活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身の回りの事象を観察したり、具体物を操作したりして、数や形に親しむ活動を取り入れる。 <p>解法の考察の時間の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多面的に考える力を付けるため、少人数での話し合い時間を確保する。 <p>基礎基本の定着を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベーシック・ドリル等を活用し立ち戻る機会を設定する。
2年			
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・問題場面を図や絵に表してから立式する力 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題場面のキーワードや数を全体で確認し、まず自分なりに図や絵に表してから立式させ立式の根拠を説明する活動を取り入れる。 	
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・正確に四則計算をする技能 ・分度器やコンパス等道具を使う作図の技能 	<ul style="list-style-type: none"> ・かけ算九九を定着させ、かけ算わり算の筆算においては、繰り上がり繰り下がりの方も確認しながら習得させる。 	
5年	<ul style="list-style-type: none"> ・問題から必要な情報を取り出す力 ・学習を振り返り、より良く問題を解決する力 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題から「分かっていること」、「求めること」は何か線に引いたり、ノートに図や表に整理したりして、題意を確認させる。 ・一つの解法だけでなく、本質的に複数の解法を見いだせるような問題を提示し、粘り強く学習に取り組む態度を育てる。 	
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な考えをもち、問題を解こうとする力 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを図や表を使って分かりやすく説明する力を付けるため、少人数での話し合い、解法の検討をしながら、多様な考えを振り返って活用させていく。 	

4 理科

～各学年共通の取組～

観点	育てたい力	授業改善の取組
知識・技能	・器具を適切に使い観察や実験を行う力	・器具の使い方を視覚化する等分かりやすく指導し、一人一人が扱う機会を設定する。実験・観察の目的を明確にし、着目すべき事象を絞らせる。
思考力・判断力・表現力	・分かったことを自分の言葉で表現する力 ・自分なりの予想や考えをもち観察や実験をし、結果を比較関連付け考察できる力	・観察や実験での結果から、「まとめ・振り返り」の時間を設定し、分かったことを自分の言葉でまとめ、友達と考えを交流する機会をもたせる。 ・「問題→予想→実験→結果→考察」という流れを定着させ、考察の際は、友達と考えを交流し、自分の言葉で結論をまとめさせる。
学びに向かう力・人間性等	・ねらいをもち、観察や実験に主体的に取り組む態度	・観察や実験の際は、何が分かるための活動なのか、「ねらい」や「観点」を明確にして取り組ませる。

～より具体的な取組・実態に合わせた取組～

	育てたい力	授業改善の取組	日常活動・補充活動
3年	・実験や観察に主体的に取り組む力	・調べる意欲や興味関心を高める工夫をする ・何を実験するのか、「めあて」を確認し、「問題→予想→実験→結果→考察」の流れが分かるような板書の工夫をする。	・理科的な用語の適切な使い方を指導する。 ・できるだけ実験や観察などを取り入れる。
4年		・実験の前には、根拠のある予想を立てさせ、何を調べるのか視点を確認して取り組ませる。 ・観察の前に、めあてを確認し、観察の視点を明確にする。 ・考えを表現する際に根拠を明示させる。	・実験の器具や道具の適切な使い方を、ICT等を活用し、視覚化して指導する。
5年	・実験や観察に、主体的に取り組む、考える力	・「問題→予想（理由）→調べ方→実験→結果→考察」という流れを定着させる。 ・調べ方に、児童の考えを取り入れる。	・論理的で分かりやすく説明ができるよう、話形を示し指導する。
6年	・実験や観察から分かったことを検証したりまとめたりする力	・課題に対して、自分なりに予想や仮説を立てさせ、友達と考えを交流させる。 ・実験や観察で分かったことを、比較検討したり原因と結果を関連付けて考えたりして、文章で表現させる。	・問題解決型の授業の流れを定着させる。

5 生活（1・2年共通）

育てたい力	授業改善の取組
・身の回りの自然や社会の事象に関心をもって取り組み、違いに気付いたり、詳しく正確に観察したりする力	・自然の継続的な観察や見学、交流活動、グループ活動等の多様な体験を通して、意欲を喚起する。 ・観察や体験活動を通し、気付いたことや感じたことを、多様な方法で表現する活動を多く取り入れる。
・様々な人との関わりを楽しみ、その人の考えや活動のよさを見付けようとする態度	・学校探検、昔遊び、地域探検などを通して、いろいろな人々と関わり、その人の考えや活動のよさに気付かせ伝え合う場面を取り入れる。

6 音楽

	育てたい力	授業改善の取組	各学年共通の取組
1 ・ 2 年	・友達と楽しみながら意欲的に歌ったり演奏しようとしたりする力	・楽しんで歌ったり演奏したりできるよう、個々やペアやグループで体を動かす活動や創作活動を取り入れる。 ・発表した後に感想を書いたり伝え合ったりする活動を取り入れる。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の導入で、体を動かし、一貫した発声指導を行い、自然に声を出すことができるようにする。 ・ペアやグループ活動において友達の声や音を聴き合って意見を伝え合う機会を作り、よいところを認め合い、よい演奏にするための工夫を友達と一緒に考えさせていく。また、少人数での活動を重ねることで、表現に対する抵抗を減らし、自信をもって演奏できるようにする。
3 年	・旋律の特徴や曲想の違いなどを感じ取り、曲想を生かした表現を工夫して演奏をする力	・歌うときに、無理のない発声になるよう、顔を動かしたり姿勢に注目したりする動きを取り入れる。 ・リコーダーのリレー奏など、個人での発表を多く取り入れ、個別指導を積み重ねていく。 ・音楽の要素に注目できるような音楽づくりの活動を行う。	
4 年	・旋律の特徴や曲想の違いなどを感じ取り、曲想を生かした表現を工夫して演奏をする力	・歌唱力を高めるために、常時活動として歌の挨拶を毎時間行う。 ・リコーダーのリレー奏など、個人での発表を多く取り入れ、個別指導を積み重ねていく。 ・音楽の要素に注目できるような音楽づくりの活動を行う。	
5 年	・合唱や合奏表現する上で必要な基礎的な技能 ・楽曲の特徴をつかみ曲想にふさわしい表現を工夫して演奏をする力	・歌唱力を高めるために、常時活動として歌の挨拶を毎時間行う。 ・運指やタンギングなどの技能面だけではなく、曲想にふさわしい表現の力が向上するよう、強弱やバランスを自分たちで工夫するなどの活動を十分に取り入れる。	
6 年		・歌唱力を高めるために、常時活動として歌の挨拶を毎時間行う。表現するための基礎として、姿勢に重点を置いて指導する。 ・曲の特徴を生かした表現になるよう、互いに聴き合う活動を増やして、曲想にふさわしい表現を考えさせる。	

7 図画工作

	育てたい力	授業改善の取組	各学年共通の取組
1年	<ul style="list-style-type: none"> 材料・色・形から発想する力 道具の基本的な使い方 自分の感じたことを簡単な言葉で発表する力 	<ul style="list-style-type: none"> 紙やのり、はさみの扱い方、描画材の使い方など、スモールステップで具体的に提示し、安全に使えるようにする。 作品の鑑賞の視点を提示し、作品の良さに気付くことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 材料の特徴を生かしながら、発想が広がるような題材設定を行う。 授業での導入・展開・終末の各過程を工夫し、個々の表現の思いが膨らむような指導を心がける。
2年	<ul style="list-style-type: none"> 材料・色・形からできるだけたくさんのおもいを思い付いたり、思い付いたこと同士をつないだりする力 	<ul style="list-style-type: none"> 材料から発想したり、友達の作品から得たヒントを発想に生かしたりして、お互いの発想を高められるような場面を設定する。 自分の工夫した点や友達の作品の良さについて感想を持つ機会を多く設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業での導入・終末では、この時間に行うべきこと、次の時間に行うことを明確に説明する。 授業の終末で本時の感想を児童に発表させることで、学習内容の価値付けを図る。
3年	<ul style="list-style-type: none"> 自分や友達の作品について、よさや面白さを感じ取り、簡単な言葉や文で気付いたことや感じたことを発表する力 	<ul style="list-style-type: none"> 自分や友達の作品について、話し合う場面を意図的に作り、言語活動を通して、形や色、表し方の面白さ、材料の感じなどに注目して見ることができるよう鑑賞の題材を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 作品を掲示・展示することで、自身や友達の作品への関心や鑑賞力を高める。
4年	<ul style="list-style-type: none"> 材料・色・形から豊かに発想する力 見通しをもって、制作に取り組み、集中して仕上げる態度 	<ul style="list-style-type: none"> 独創的な発想を全体に取り上げ、大いに認め励ますようにする。 	
5年	<ul style="list-style-type: none"> 材料・色・形から豊かに発想する力 電動糸のこぎりや針金の扱いなど、これまでの造形的な経験を更に広げる用具などを適切に使う力。 	<ul style="list-style-type: none"> 制作の手順を分かりやすく板書し、次に自分が何をすればよいのか明確にする。 様々な用具を材料とともに取り扱う造形的な経験を数多く取り入れる。適切に道具を扱うことが苦手な児童には座席を配慮するなどの個別対応を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分や友達の作品や身近な芸術作品について、よさや美しさを感じ取り、感じたことや思ったことを友達と話し合うなどして、表し方の変化、表現の意図や特徴などが捉えられるような鑑賞の題材を工夫する。
6年	<ul style="list-style-type: none"> 自分や友達の作品や身近な芸術作品について、よさや美しさについて感じ取り、感じたことや思ったことを話す力。 	<ul style="list-style-type: none"> 自他の作品について、感じたこと、調べたことを発表する場面を作る。 	

8 家庭(5・6年共通)

育てたい力	授業改善の取組
<ul style="list-style-type: none"> 家庭で自分ができることを考え、学校で学んだことを実生活に生かそうとする力 	<ul style="list-style-type: none"> 授業で(部屋の整理整頓、献立を立てて作る等)家庭で実践できる課題を児童に見つけさせる。見つけた課題を解決する力を身に付けさせるために、実習や体験する時間を多く取り入れ、一人一人が家庭での仕事をできるようにする。
<ul style="list-style-type: none"> 調理実習、裁縫(手縫い、ミシン縫い)で調理器具や道具、用具を正しく安全に使うことができる力 	<ul style="list-style-type: none"> 正しい使い方を繰り返し教えるとともに、針、ミシン、ガスコンロや包丁を使う時は必ず予備練習を行ってから実習に入る。 ペアやグループ活動を取り入れ、考えを交流したり、協力して取り組んだりして、実習を充実させる。 ICTを活用して、考えを整理させ製作手順や調理計画を立てさせ、実践させる。

9 体育

～各学年共通の取組～

育てたい力	授業改善の取組
<ul style="list-style-type: none"> めあてをもち、意欲的に取り組もうとする態度 	<ul style="list-style-type: none"> 学習カードやノート等を用いて、個人やチームのめあてを明確にする。
<ul style="list-style-type: none"> 協力し合い、お互いに認め合おうとする態度 	<ul style="list-style-type: none"> チーム力を高めるため、作戦や練習方法を話し合う活動を取り入れる。 友達同士、よい所を認め合えるような場面を設定する。
<ul style="list-style-type: none"> 目的に応じた動きや技能 	<ul style="list-style-type: none"> よいモデルを示し、よりよい動きを理解して練習に取り組ませ、技能を身に付けさせていく。その際、段階を追って一人一人の力に合っためあてをもたせ、自分に合った練習ができるようにする。 運動のねらいを明示し、ねらいに合った動きを取り上げ褒める。

～より具体的な取組・実態に合わせた取組～

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性等
1 2 年	<ul style="list-style-type: none"> 技に関連した易しい動きを段階的に、取り組ませる。 どのように身体を使うのかや状況に応じた動きはどうかなど具体的にモデルで示す。 	<ul style="list-style-type: none"> めあてに沿って楽しくゲームや運動ができるように、学習のまとめの場面で学習を振り返りルールや得点方法を話し合い考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> きまりやルールを分かりやすく視覚化して示し、すすんで取り組もうとする態度を身に付けさせる。 きまりを守り友達と仲良く取り組んだことを褒め励ますことにより、きまりルールを守ることの大切さに気付かせ、一緒に運動する楽しさを感じさせる。
3 4 年	<ul style="list-style-type: none"> 自己の能力に合わせて楽しく練習できる場の工夫をして取り組ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> ペアやグループでお互いの動きを見て、よいところや改善点を伝える活動を通して、よりよい動きや作戦に気付かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 活動のめあてや流れを分かりやすく視覚化して提示し、主体的に活動できるようにする。 取り組んだことの成果が分かるようなカード等で自己評価させ、意欲的に取り組むことができるようにする。
5 年 6 年	<ul style="list-style-type: none"> 自分と友達の動きを比較したり、友達の助言を取り入れたりして、技能を高められるようにする。 自己の能力に合わせて段階的に取り組めるような方法や場を選び練習させ技能を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ペアやグループ、兄弟チームでお互いの動きや試合を見てよいところや改善点を伝える活動を通して、よりよい動きや作戦を考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の課題を解決する練習方法や段階的な発展技を提示することで自分の力に応じた技や練習方法を選ばせる。 活動のめあてや流れを分かりやすく視覚化して提示し、自主的に活動できるようにする。 グループ活動を取り入れ、協力して取り組んだことを認め励まし、協力して運動する楽しさを感じさせる。

10 外国語活動 (3・4年共通)

領域	育てたい力	授業改善の取組
聞く	・ゆっくり、はっきり話されれば、身の回りの物を指す単語や基本的な表現の意味が分かる力	・写真やイラスト、映像資料等を活用して、ALTの発話と結びつける活動を行う。 ・話す人の口元をよく見ながら聞き分けることを意識させる。
話す やりとり	・相手の言葉に反応し、うなずいたり、聞き返したりしながら、会話を続ける力	・ALTと担任の役割分担を明確にし、動作を交えながら、考えや気持ちなどを伝え合う活動を意図的・計画的に実施する。 ・状況を予想することを意識させる。
話す 発表	・言葉に加えて、実物を使ったり、身振りや手振りを使ったりして、相手に自分の言いたいことを伝える力	・人前で自分の言いたいことを伝えるために、実物や写真、イラストを活用しながら、聞き手の方を見ながら発表させる。

(5・6年共通)

領域	育てたい力	授業改善の取組
聞く	・話し手の言いたいことを推測しながら聞くことができる力	・映像や身振り、手振り等の手がかりを音声と共に提示する。
話す やりとり	・相手意識を持って、聞き返したり話を続けようとしたりして、会話を楽しむ力	・ALTと担任の役割分担を明確にし、リアクションや反応などのインプットを意図的・計画的に実施する。
話す 発表	・他者に配慮しながら、積極的に伝えようとする力	・相手の様子や反応をみながら発表できるよう、アイコンタクトやジェスチャー、映像資料等を活用しながら発表させる。
読む	・大文字と小文字を識別し、読み方を発音することができる。	・アルファベットカードを活用し、クイズ・ビンゴ・カード並べゲーム等を通して、友達とかかわりながら発音する活動を多く取り入れる。
書く	・大文字と小文字を書くことができるとともに、十分に慣れ親しんだ語句を書き写す力	・単に書き写すだけにならないよう、児童が自分の考えを表現できるように複数の単語から選択させたり、カードを選ばせたりする。

IV 学力向上に向けて～ご家庭で取り組んでいただきたいこと～

学校は、集団で様々な「生きるための力」を学んでいく所です。その中核となるのが、国語や算数といった教科の学習です。「できる喜び・分かる喜び」を通して、さらに意欲も高め、学ぶ楽しさ・生きる喜びへとつなげていきたいと考えます。

また、子どもたちの学力を伸ばすには、ご家庭の協力が大切です。基本的な生活習慣を整え学習できる体と心を育てること、温かい励ましで安心して取り組める気持ちをもたせることに加え、「学びの心・技能」を育て、「習慣」を付けるために、以下の点に留意して取り組んでいただくと、さらに力が付いてくると思います。

学びの心を育てる

その1 好奇心・関心の目を広げましょう。

自然の動植物、季節の移り変わり、天気や宇宙への興味、様々な仕事の場面、公共機関の乗り物、世の中の数の不思議・・・数限りなく世の中は不思議に満ちあふれています。

子どもたちは豊かな体験を通して、たくさんの興味関心が蓄積していきます。また、その気付きをお子さんと共に、語ってください。楽しんでください。



おすすめ・①寝る前の親子読書(読み聞かせ)10分間にトライ。

②地図やことわざ、ポスターなどよく目にする場所などに貼ってみる。

③一緒にすぐ調べてみよう。辞書や図鑑など身近に置いて。

その2 学べる心と体づくりが基本です。

「なんとなくやる気がしない。」「なんだかイライラして集中しない。」など、学ぶ時の心や体ができていないと学習どころではありません。食事・睡眠といった生活習慣がやはり一番大切です。そして、うれしかったこと楽しかったことがすぐに言えたり、心配事を相談できたりできる親子関係づくりをしていきましょう。

ポイント・聞き上手になりましょう。

①反復する ②共感する ③それで?と促す。

親の願いを伝えるときは、I(アイ)メッセージで。前向きなアドバイスを。

「私は、…と思うよ。」「…すると、…できるよ。」

学びの技能を育てる

その1 身の回りのことは、自分でできるようにしましょう。

やり方を教えたら、あとは見守ってください。

その2 お手伝いが、生きる知恵・生きる力に結び付きます。

責任をもって取り組める仕事をしてもらいましょう。

「ありがとう。」「助かるよ!」の声かけが励みになります。

買い物、食事の支度は、産地が分かったり、量を体感したり、学習のチャンスがいっぱいです。また、仕事の段取り能力は、学習全般に生きてきます。



学びの習慣を付ける

10分×学年の数の家庭学習の時間を確保しましょう。(1年・・・10分/2年・・・20分)

ポイント・毎日、原則、宿題はあります! テレビも消して集中を。

音読が一番の基本～聞いてくれる人がいてこそ! 丸付け・見直しをご一緒に。

若葉台スタンダード

※カリキュラムマネジメント

各教科の教育内容を相互の関係で捉え、教育目標を踏まえた教科等横断的視点で、組織的に配列し指導計画に生かしていく。

指導計画

- ・「ねらい」「指導方法・内容」の位置付け
- ・児童の発言・つぶやきを指導計画に生かす

学習規律

- ・姿勢（びん・ぴた・ぐう　せ・め・て）の徹底
- ・「話す・聞く」のルール（はい、立つ、です／最後まで聞く）。の確立
- ◎授業開始前の、机上の学習用具の準備の徹底
- ◎授業の始まりと終わりの時刻の遵守
- ◎授業の始まりと終わりの挨拶の徹底

授業

導入

- ◎「単元名」「学習のめあて」の提示により、何を学習するかが分かる
- ・「学習課題」の提示・「予想〈+理由〉」をもたせる（解決の見通し）
- ・既習事項や生活体験に基づく導入（解決の見通しとヒント）

展開

- ◎考えを引き出す意図的な発問（多様な考えを引き出す発問）
- ・自分の考えをもつ・書く・伝える活動の充実
- ◎場の設定の工夫（ペア・グループ・全体）による学び合い
- ・話し合いの視点の明確化
- ・丁寧な児童観察（表情・つぶやき）を、授業の展開に生かす
- ・構造的な板書
- ・I C T の活用（効果的な活用へ）

まとめ

- ・自己評価の場の設定
- ◎めあてに対する個々の到達度の把握

定着

- ・習得した知識・技能を補充・活用する課題を出す